

# 大会宣言(案)

本日、私たちJR東日本労働組合長野地方本部は「JA長野県ビル」において「第13回定期大会」を開催した。結成10周年を迎え、この間組合員一丸となって取り組んできた運動の成果を全体で確認するとともに、さらに未来に向かってたたかう方針を満場一致で確認した。

経営側は「変革2027」の実現に向け、今まで以上にスピードを上げて様々な施策を推し進めてきている。統括センター化された職場においては「兼務」「兼駅」による業務量の増加、乗務員においては駅での券売機案内や自動改札機の対応を行路内の時間で担当するなど、社員一人一人の業務負担は日々増加している。そのような状況の中、削減が進められていた「みどりの窓口」が急きょ再開されるという事態も発生している。このことは現場実態を無視して施策を推し進めてきた経営側に問題があったと言わざるを得ない。私たちはこれからも「現場の声」を第一とし、働き甲斐のある職場の実現を目指して全力でたたかいをつくりだしていく。

先日発表された「2025年3月期 第1四半期決算」では、営業利益は単体で「対前年157.1%」となり単体・連結決算ともに「増収増益」となった。また、お盆期間中のご利用状況は「対前年比105%」と昨年を上回り業績は順調に回復してきている。この業績は、様々な会社施策の導入に伴って社員一人一人の業務量が増加する中でも「安全・安定輸送」をつくりだすために全ての社員が現場で奮闘してきた結果であることを経営側は忘れてはならない。

2024年度夏季手当は、第3四半期決算の営業利益を判断ベースに「2.7ヶ月分」が支給されたが、判断要素に含まれていない第4四半期分の利益だけでなく、上方修正した通期計画の達成、「安全・安定輸送」をつくりだしてきた社員の奮闘などを踏まえ東日本ユニオンは「1.0ヶ月分」の追加支給を求める申し入れを経営側に提出し、長野地本においても追加支給を勝ち取るために各機関で創造的な取り組みを展開してきた。職場での議論を通じ「東日本ユニオンの追加支給賛成！応援します！」といった声も数多く寄せられ、私たちの主張を組織外に大きく発信することができた。今後もJR労働者の利益を守るために連帯の輪を広げながら正当な成果配分の実現を目指して力強くたたかっていく。

結成から10年を迎え、私たちを取り巻く状況は目まぐるしく変化している。しかし「組合員と家族の利益を守る」ということが労働組合の最大の使命であることは、これからも変わらない。新たな未来に向けてどのような労働組合を創造し、組織の強化・拡大をはかるのか、みんなで考え行動し、組織の総力を挙げて東日本ユニオンのたたかいを長野の地から大きく、力強く推し進めていこう!!

以上、宣言する。

2024年8月28日  
JR東日本労働組合  
長野地方本部  
第13回定期大会